

植物  
防疫  
講座

虫害編-37

草地・飼料作物における主要な害虫の生態と防除

—牧草編—

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 **しば 柴** **たく 卓** **や 也**  
 植物防疫研究部門 作物病虫害防除研究領域

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 **よし 吉** **だ 田** **のぶ 信** **よ 代**  
 畜産研究部門 畜産飼料作研究領域

はじめに

飼料作物の種類には、放牧地や採草地で栽培されるイタリアンライグラス、パレニアルライグラス、オーチャードグラス、トールフェスク、チモシー等のイネ科牧草、アルファルファ、シロクローバ等のマメ科牧草のほか、夏作物として栽培される飼料用トウモロコシやソルガム、冬作物として栽培されるライムギやエンバク等がある。これらの牧草・飼料作物を食害する害虫の種類は多く、「日本牧草害虫目録」(農林水産省, 1969)や「農林有害動物・昆虫名鑑」(日本応用動物昆虫学会, 1987), 「農林有害動物・昆虫名鑑 増補改訂版」(日本応用動物昆虫学会, 2006)等に9目75科405種の昆虫, 2科5種のダニ, 2目10科22種の線虫等が記載されている。このうち、経済的な被害を発生させる主要害虫としては、チョウ目, コウチュウ目, カメムシ目に属する昆虫が多い(表-1)。過去に牧草・飼料作物の収量や品質に大きな損害をもたらした例のある害虫としては、イネ科牧草ではアワヨトウ, ムギダニ, コガネムシ類, マメ科牧草ではアルファルファタコゾウムシ, 飼料用トウモロコシ

ではアワヨトウ, アワノメイガがよく知られている。近年では、飼料用トウモロコシでワラビー萎縮症を引き起こすフタテンチビヨコバイ, 2010年と2019年に沖縄県のイネ科牧草で被害を発生させたアフリカシロナヨトウ, 2019年から飼料用トウモロコシで発生が認められるようになったツマジロクサヨトウ等, これまであまり知られていなかった新しい害虫による被害も報告されるようになってきている。本稿では、飼料作物のうち、イネ科牧草およびマメ科牧草における害虫対策の現状, および、主要害虫の発生生態と防除対策を紹介する。

I 牧草地における害虫対策の現状

イネ科やマメ科の牧草は、水稻や野菜等のような商品作物としてではなく、畜産農家や酪農家が自ら飼育する家畜に与える餌(自給飼料)として栽培されるため害虫による食害痕などは問題にならない。また、害虫による食害が牧草の収量や品質に影響を及ぼすこともほとんどない。こうした理由から、なんら害虫対策を講じることがなくても経済的な損失を被ることはほとんどない(一定の収量と品質を確保できることが多い)ため、牧草裁

表-1 飼料作物の主要害虫

作物名	主要害虫
イネ科牧草	アワヨトウ, スジキリヨトウ, イナゴ・バッタ類, ムギダニ, コガネムシ類(スジコガネ, ツヤコガネ, ヒメコガネ, マメコガネ等), カメムシ類(アカヒゲホソミドリカスミカメ, アカスジカスミカメ)
マメ科牧草	アルファルファタコゾウムシ, オオタコゾウムシ, アブラムシ類(エンドウヒゲナガアブラムシ, コンドウヒゲナガアブラムシ)
トウモロコシ・ソルガム	アワヨトウ, イネヨトウ, アワノメイガ, フタテンチビヨコバイ, アブラムシ類(ヒエノアブラムシ, ムギクビレアブラムシ), ハリガネムシ類

Ecology and Management of Insect Pests in Forage. By Takuya SHIBA and Nobuyo YOSHIDA  
 (キーワード: 飼料作物, 牧草, 害虫, 生態, 防除対策)